

Q1: 「中長期の見込み案件は積み上がっているとの認識」と記載がありますが、どのような案件が増加していますか？

A1: 雨水貯留槽の案件が中長期の見込みとして積み上がっていると認識しております。昨今の短期的な集中豪雨被害の増加で、地下式の調整池の需要が増加しており、当社製品の採用された案件が、2023年3月期と2024年3月と比べて、約2倍程度増加している状況です。

Q2: 技術研究所ではどのような活動をしているのでしょうか？

A2: 各グループ会社には開発部があり、2～3年の開発期間を要する新製品などを担当しています。それに対し、技術研究所は、5年後や10年後を見据えた企業価値向上に寄与する技術の研究を目指しています。主な研究内容としては、工場のCO2削減を目的に、コンクリート製品製造時の促進養生として使用される蒸気養生を不要とするコンクリート製品の開発や、CO2排出量の多いセメントを極力使用しない新素材の開発があります。また、防衛関係では、防護構造の衝撃に関する基礎的な研究や、その他センサー技術などインフラメンテナンスに有効な技術などの研究を行っています。これらの研究は、大学などの研究機関とネットワークを構築しながら、当社の事業の核となるテーマの研究を着実に進めています。

以上